

## 技術アドバイザー国内委員会 議事録

### 「精密調査地区選定上の考慮事項」第1回

1. 日 時：2012年3月29日（木）13:30～15:30

2. 場 所：原子力発電環境整備機構 会議室

3. 出席者：

【DTAC】 大江俊昭委員長，芥川真一委員，石川博久委員，金折裕司委員，河西基委員，杉山雄一委員，高橋正樹委員，吉田英一委員（委員長以下50音順）

【NUMO】 山路亨理事長，武田精悦理事，土宏之技術部長ほか

4. 議事概要：

精密調査地区選定上の考慮事項策定に向けた基本的考え方などについて，原子力発電環境整備機構（以下，NUMO）より説明を行い，それに対してご意見をいただいた。

委員からの主なコメントは以下の通り。

（1）精密調査地区選定上の考慮事項の基本的考え方について

- ・ 考慮事項の枠組み（地化学特性）において，酸化的な地下環境ではないこととして ORP： $Eh < 0mV$  との例が示されているが，これを判断基準として良いかと言われると難しいと考える。また，初期状態として酸化状態か還元状態かという点のほかに，坑道閉鎖後に酸化状態から還元状態に戻りやすいかといった指標が必要かも知れない。
- ・ 除外要件と相対比較に関する事項は，どこで切り分けるかを考えながらキーワードを作っていく必要がある。
- ・ 法定要件は，東日本大震災の前に作られた法律に基づいている。これをクリアしたからと言って十分と言えるかどうか，万が一何かあったときの対応のしやすさといった観点の考え方に抜け落ちがないかに注意しながら，検討を進めていくべきである。

（2）「概要調査地区選定上の考慮事項」と「精密調査地区選定上の考慮事項」の相違点

- ・ 周辺環境に関する事項は相対比較に関する事項としているが，除外要件にもなり得る重要な事項ではないか。
- ・ 経済性や工程に関する事項は，安全に関する事項に付随して設定されるものであり，両者を同列に扱っているわけではないことがわかるように整理していくことが必要である。
- ・ 法定要件の破碎帯における水流と，付加的評価事項の地下水流動特性に関する事項の違いがわかりにくいので，表現を工夫すべきである。

(3) 考慮事項の判断指標・基準・根拠

- ・ 他はジェネリックな項目が並んでいる中で、泥火山だけが地域限定的な項目であって、唐突な感じを覚える。なぜ泥火山を取り上げたのか説明できる論拠を準備しておいた方が良い。
- ・ 地震・断層活動の判断根拠の素案として現広域応力場と変位センスの関係が示されているが、東北地方太平洋沖地震以降、従来の広域応力場に関する説明が成立しなくなっている。また、断層の活動性の目安として、原子力発電所と同じ後期更新世以降を対象としているが、長期安全性を考える必要がある地層処分はこの時間スケールでは不足である。火山・火成活動の目安である第四紀（258 万年前以降）に近づけていく必要性があると思われる。
- ・ 地震・断層活動の調査・評価のフローに関して、断層の存在と活動性を個別に評価することとしているが、実際にはこれらを合わせて活断層の存在について評価することになると考える。

以 上